

ホタテガイ生産の現状について

1 ホタテガイ生産状況〔市管内（青森市漁協＋後潟漁協）計〕

①生産量【1月～12月生産量】

項 目	計	内 訳			備 考
		稚貝	半成貝	成貝	
令和 6 年	2,433.8 トン	1.7 トン	2,297.2 トン	134.9 トン	
令和 5 年	5,519.5 トン	0.2 トン	4,764.4 トン	754.9 トン	
R1～R5 平均	13,737.1 トン	841.6 トン	12,124.2 トン	771.3 トン	

②生産額【1月～12月生産額】

項 目	計	内 訳			備 考
		稚貝	半成貝	成貝	
令和 6 年	680,593 千円	526 千円	620,559 千円	59,508 千円	
令和 5 年	1,327,251 千円	55 千円	1,067,434 千円	259,763 千円	
R1～R5 平均	2,069,278 千円	119,366 千円	1,775,327 千円	174,584 千円	

2 令和 6 年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査の結果について

（1）調査目的

陸奥湾におけるホタテガイの適正養殖を推進するため、垂下養殖の実態を把握し、今後のへい死等の対策及び生産計画の指針とする。

（2）調査主体

陸奥湾内各漁業協同組合（協力：むつ湾漁業振興会、関係市町村、水産総合研究所、県）

（3）調査期間及び対象

①現地調査（成育状況等）

ア 調査期間：令和 6 年 1 1 月 5 日～1 5 日

イ 対 象 貝：新貝（令和 5 年産貝）及び稚貝（令和 6 年産貝）

ウ 対 象 者：1 0 漁協の 4 5 名（全養殖漁業者の 5 % 相当）

②聞取り調査（保有枚数等）

ア 基 準 日：令和 6 年 1 0 月 1 日

イ 対 象 貝：成貝（令和 4 年産貝）、新貝及び稚貝

ウ 対 象 者：1 0 漁協の全養殖漁業者（8 4 3 経営体）

（4）過去の高水温年との比較（陸奥湾）

異常高水温により大量へい死が起こった平成 2 2 年、令和 5 年と比較すると、新貝及び未分散稚貝のいずれもへい死率は両年を下回ったが、平年値を上回った。また、新貝の軟体部重量は両年を下回り、未分散稚貝の全重量は平成 2 2 年を上回ったものの、令和 5 年を下回り、いずれも平年値を下回った。要因として高水温の長期化が挙げられ、また、餌料環境も成長に影響した可能性がある。

(5) 調査結果（青森市の状況）

① へい死率

新貝のへい死率は、両漁協とも昨年を下回っている。分散済み稚貝のへい死率は、令和 6 年の陸奥湾平均値及び陸奥湾平年値を下回っている。未分散稚貝のへい死率は、両漁協ともに昨年を下回ったものの、陸奥湾平年値を大きく上回っている。
また、地区別へい死率については、油川地区、青森地区、造道地区、原別地区、野内地区でへい死率が大きくなっている。

<へい死率①> ※組合計

(単位: %)

項 目	青森市漁業協同組合			後潟漁業協同組合			R6 陸奥湾平均	陸奥湾平年値
	R6	R5	R6-R5	R6	R5	R6-R5		
新 貝	24.1	83.4	▲59.3	21.7	26.0	▲4.3	22.0	17.1
分散済み稚貝	2.0	0	2.0	0	0	0	3.2	4.5
未分散稚貝	70.6	90.3	▲19.7	28.7	41.3	▲12.6	45.7	12.5

※陸奥湾平年値：昭和 60 年～令和 5 年の平均値

<へい死率②> ※地区別

(単位: %)

項 目	新 貝			分散済み稚貝			未分散稚貝		
	R6	R5	R6-R5	R6	R5	R6-R5	R6	R5	R6-R5
奥 内	23.1	88.9	▲65.8	0	—	—	56.1	86.3	▲30.2
油 川	—	—	—	0	—	—	86.9	99.8	▲12.9
青 森	—	—	—	—	—	—	99.5	92.7	6.8
造 道	57.8	100.0	▲42.2	0	—	—	84.2	78.8	5.4
原 別	34.4	52.0	▲17.6	0	—	—	88.4	100.0	▲11.6
野 内	18.8	60.0	▲41.2	0	—	—	78.1	80.5	▲2.4
久 栗 坂	23.0	56.7	▲33.7	40.7	0	40.7	43.0	70.5	▲27.5
(漁協全体)	24.1	83.4	▲59.3	2.0	0	2.0	70.6	90.3	▲19.7
後 潟	21.7	26.0	▲4.3	0	0	0	28.7	41.3	▲12.6
(漁協全体)	21.7	26.0	▲4.3	0	0	0	28.7	41.3	▲12.6

※「—」は計測データなしを示す。

② 保有枚数

親貝となる成貝や新貝の保有枚数は 3 3 3 万枚で、昨年を 1 2 0 万枚下回った。稚貝の保有枚数は 1 億 5, 3 9 1 万枚で、昨年を 3, 2 0 5 万枚上回った。なお、成貝・新貝、稚貝とも、平年値と比較して約半分となっている。また、稚貝のうち半成貝向けとして保有している枚数は 1 億 4, 8 6 5 万枚で、昨年を 3, 2 0 7 万枚上回り、成貝向けとして保有している枚数は 5 2 4 万枚で、昨年を 4 万枚下回った。

<保有枚数>

(万枚)

項 目	青森市漁業協同組合		後潟漁業協同組合		計		R6-R5	青森市平年値
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		
成貝・新貝	205	327	128	126	333	453	▲120	654
稚 貝	5,907	4,386	9,484	7,800	15,391	12,186	3,205	31,212
うち半成貝用	5,584	4,077	9,281	7,581	14,865	11,658	3,207	30,388
うち成貝用	322	309	202	219	524	528	▲4	824
合 計	6,112	4,713	9,612	7,926	15,724	12,639	3,085	31,866

③ まとめ

- ・令和 6 年の陸奥湾の海水温は、令和 5 年より抑えられたが、例年よりも高水温期間が長かった。
- ・へい死率は、新貝及び分散済み稚貝では、ほぼ例年並みであり、未分散稚貝は令和 5 年と比較して改善したものの、平年に比べ大きく上回っている。
- ・ホタテガイ保有枚数は、令和 5 年と比較し、成貝・新貝は減少し、稚貝は増加している状況にあるものの、平年と比較して大きく減少している状況にある。

(6) 今後の指導内容

- ・親貝となる成貝及び新貝の保有枚数が、目安となる枚数を下回ったため、産卵前の出荷は最小限とし、今後も継続してより一層の親貝確保に努めること。
- ・新貝、稚貝ともに冬季波浪等によるへい死を防ぐため、適切な玉付けにより養殖施設の安定化に努めること。